

意思決定支援ドラマシナリオ

場面1 「支援チームの編成と支援環境の調整」



【構成】

- 1-1: サービス担当者間で現状の情報共有
- 1-2: 意思決定支援ミーティング開催の提案
- 1-3: 意思決定支援ミーティング開催に関する具体的な検討

【登場人物】

山村…保佐人

意思決定支援にかかわった経験があまりない。取り組む意欲はあり、自分の役割を理解して実践しようとしているが、まだ本人との付き合い方にも戸惑っているところもある。

杉田…市の権利擁護センター担当者（中核機関）

これまで多くの意思決定支援の事例に接してきており、本人の意思をできるだけ尊重した支援を心掛けている。山村のサポート役。

東条…ケアマネジャー

熱心で本人との関係も良好。デイサービスとも意見交換して、本人のためのケアを模索している。しかし本人の生活上の心配が先に立ち、本人の意思よりも安全を重視しがちになっている。

西野…デイサービス相談員

本人とは毎日のように顔を合わせており、日常の様子を把握している。施設での本人と南看護師とのトラブルや人間関係も実際に見ている。

■ ■ 場面 1 - 1 : サービス担当者間で現状の情報共有

| No | シーン・状況 | セリフ | ガイドラインとの関係 | 支援上の工夫点等 |
|-----|-------------|---|--|----------|
| 【0】 | <導入> | <ナレーション> これから・・・ | <ul style="list-style-type: none"> ● 3つの場面の画像について説明しています。 ● 場面1-1～1-3の一連の流れは、ガイドライン p.7～の「(2) 支援チームの編成と支援環境の調整」を行う場面です。 | |
| 【1】 | <北川さんの情報> | <ナレーション> 「北川太郎さんは66歳。軽度知的障害とてんかんがあり、療育手帳を持っています。要介護1で年金と生活保護を受給しています。2018年にてんかんのため入院。退院前に病院から市の権利擁護センターに相談があり、成年後見の支援を受けるようになりました。今日は、北川さんのこれからの支援について話し合いが行われています。」 | | |
| 【2】 | <顔合わせ、自己紹介> | 山村（保佐） 「みなさん、今日はお集まりいただき、ありがとうございます。保佐人の山村です。」 杉田（中核） 「権利擁護センターの杉田です。北川さんとは成年後見の申し立ての時に関わらせていただきました。」 東条（ケア） | <ul style="list-style-type: none"> ● この事例では保佐人が会議を招集していますが、ガイドライン p.8の注17にあるとおり、支援環境の調整段階で他の支援者らが中心となって検討を行うことも少なくなく、後見人等が必ずしも検討の場に常に同席を求められるとは限りません。 | |

| | | | | |
|-----|-----------|---|---|--|
| | | <p>「ケアマネの東条です。」</p> <p>西野（相談）</p> <p>「デイサービス相談員の西野です。」</p> | | |
| 【3】 | < 課題の共有 > | <p>山村（保佐）</p> <p>「えー、北川太郎さん、市内の朝日ヶ丘1丁目に一人暮らし、なんですけど…」</p> <p>東条（ケア）</p> <p>「問題はそこなんです。」</p> <p>山村（保佐）</p> <p>「ええ。今回、<u>ケアマネさんから、施設入所を検討してはどうか、というご提案を頂きました…。</u>」</p> <p>杉田（中核）</p> <p>「東条さん、<u>どうしてそう思われたのですか？</u>」</p> <p>東条（ケア）</p> <p>「はい。北川さん、以前は障害の訪問サービスを利用していたんです。でも65歳になって介護保険になって、施設併設のデイサービスにしたんです。いずれは施設に入ることも考えて、集団生活に慣れるためにもいいかと……。」（西野を見る）</p> <p>西野（デイ）</p> <p>「(うなづく) うちのデイを週2で契約しているのですが、ほとんど利用していません。…</p> | <p>●意思決定支援におけるポイントを分かりやすく解説するため、ケアマネが「在宅介護が限界で施設入所が適切」と考えて、保佐人に施設入所契約を求めているという設定になっています。このような場合、本来であれば、後見人等は「本人の意思や生活状況」「支援者の把握している情報」の確認を行う等の対応を行った上で、必要に応じてミーティングを招集するということが考えられます。また、ミーティングを招集する場合も、話し合いの項目出しをして行うほうが効果的であると考えられます。しかし今回は、短時間で事例を説明するため、割愛しています。</p> | <p>●杉田は、東条ケアマネに、「施設入所が本人のためである」と思った理由を聞くことで、本人の意思に基づくものかどうかを確認しようとしています。</p> |

| | | | | |
|-----|--------------------------------|--|--|--|
| | | まあ、『パトロール』で、ほとんど毎日顔は出してくれるんですが（苦笑）」 | | |
| 【4】 | <本人特性の説明：パトロール> | 杉田（中核） 「パトロール？」 西野（相談） 「はい。朝夕毎日、『ここはオレが警備してやるんだ』って言いながら。」 杉田（中核） 「じゃあ、 <u>北川さんは毎日デイサービスをパトロールして警備しておられるつもりなんです</u> ね。」 西野（デイ） 「はい。でも、レクリエーションとかはしません。パトロールや、自転車で走り回っているほうがお好きなようで。」 | | ●パトロールは、本人から見れば「デイサービスの安全を守るための行動」。杉田は、本人の行動を本人の立場から説明しています。 |
| 【5】 | <本人特性の説明：自転車> <南看護師の提案> | 東条（ケア） 「その自転車が問題なんですよ。持病もありますし。」 西野（デイ） 「私たちも不安で。うちの看護師の南が提案したんです。自転車のカギはうちで預かりますって。それと、お薬。北川さん、どうせ毎日パトロールに来るんですから、うちで薬を預からせて頂いて服薬管理をしましょうと。飲み忘れの心配もなくなりますし。」 | | |

| | | | | |
|---|--|---|--|--|
| <p>【6】</p> <p>< 今回の問題点が明らかに ></p> <p>東条は、施設入所を提案する。 山村（保佐）考えながら（うなずく）」</p> | <p>東条（ケア） 「ところが北川さんはこれに反発して、それ以来、施設で大声を上げるようになったんです。」 山村（保佐） 「それで、『サービスを全部やめる』との発言まで……。」 東条（ケア） 「はい。でも、<u>ほんとに全部止めたら、北川さん生活できません。ですから、保佐人さんに施設の入所契約をしていただこうと思って。</u>」 山村（保佐） 「(うなずく)」</p> | | | <p>●東条のこの発言は、本人を心配することからのものですが、本人の状況を支援者の立場で判断し、本人の意思を超えた発想からの対応をしようとしています。</p> |
| <p>【7】</p> <p>杉田（中核）（手を挙げながら？）質問</p> | <p>杉田（中核） 「<u>でも北川さんのお気持ちはどうなんでしょう。ご本人は何ておっしゃってました？</u>」 東条（ケア） 「<u>私、この前北川さんに聞いたんです。『この先ずっと一人でここで暮らすの大変ですよ。』って。そしたら北川さん、『ウン、大変だなあ』って言ってました。なので「じゃあ、そろそろ施設探そうか？」って聞いたら、うなずいたままで、イヤとってはいませんでしたよ。」</u> 西野（デイ） 「本人が施設入所を望んでいるなら、それでいいんじゃないでしょうか。」</p> | <p>●ガイドライン p 8 「メンバーには、本人の意思が明確に表明されない場合であっても本人の意思自体は存在するということが十分に理解し、その意思を汲もうとする姿勢が求められる。」</p> | | <p>●杉田は、支援者中心で本人意思不在のまま話が進行しないよう、本人の意思の確認は誰がどのように行っているか。本人の意思はどのようなものであるかを共有しようとしています。</p> <p>●東条と西野は、本人の「うなずいたまま、イヤとは言っていなかった」という行動を、自分のストーリーに当てはめて解釈している可能性があります。リスクを回避できて、支援者が安心できるストーリーで、本人の行動を支援者目線で勝</p> |

| | | | | |
|------------|-----------------------------|---|--|-------------------------------------|
| | | | | 手に解釈しないよう、注意する必要があります。 |
| 【8】 | Q 演習：「ご本人は施設入所を望んでいると思いますか」 | ナレーション 「北川さん本人の意思を、本当に汲み取れていると思いますか？なぜそのように感じたのかについても、考えてみましょう。」 | ●本当に汲み取れているか否かという議論よりも、本人の行動の解釈に様々な可能性があること、それに対して支援者として本人の意思の形成や表明についての役割があるということに気づいていただきたい問いかけです。 | ●研修教材 p34 形成支援のチェックポイントも参考にしてみてください |

■ ■ 場面 1 - 2 : 意思決定支援ミーティング開催の提案

| No | シーン・状況 | セリフ | ガイドラインとの関係性 | 支援上の工夫点等 |
|-----|---------------------------------|---|-------------|---|
| 【9】 | <p><本人の状態・様子の確認 ></p> | <p>山村（保佐） 「……というわけで、ご提案のあった施設入所を含めて今後の支援のあり方を検討したいんです。」</p> <p>杉田（中核） 「<u>その前に、西野さん、デイでの様子はどうですか？</u>」</p> <p>西野（デイ） 「南の姿を見ると怒鳴ります。『あっちへ行け』とか『うるさい』とか。南のほうも、ちょっと、その、口調がきついところはあるんですが。」</p> <p>東条（ケア） 「私、南看護師からも直接お話を聞いたんです。それで、デイのみなさんが困っているのになって。」</p> <p>杉田（中核） 「<u>ケアマネさんが心配されているように、デイのみなさんは、お困りですか？</u>」</p> <p>西野（デイ） 「まあ、合う合わないはあるかも知れませんが、南看護師以外の職員や利用者に対して怒鳴ることはありません。ちゃんと話せば答えてくれていると思います。」</p> | | <p>●杉田は、施設入所を前提として会議が進行しないように、本人の現状や、他の人の見解を確認して、支援者間で共有しようとしています。</p> <p>●杉田は、「ケアマネさんが心配されているように」と東条が心配する気持ちを肯定的に受け止めています。その上で、別の視点からの意見を求める形で、西野にデイサービスでの本人の様子について尋ねています。</p> <p>意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドラインによる本人支援を進める際、支援者</p> |

| | | | | |
|------|-----------------------------------|--|--|--|
| | | <p>東条（ケア） 「ああ、そうなんですね。私、南さんの話で、デイではもう無理なのかなと思って、それで山村さんにご相談したんですけど。」</p> <p>西野（デイ） <u>「ウチのほうでは、南と顔を合わさないようにすればいいので、施設入所までは早いのかも」と。</u></p> | | <p>の不安や心配な思いは受け止めた上で、ガイドラインに従った対応を進めていくことでチームの意見がまとまっていくことがあります。</p> <p>●西野は、場面1-1では「本人が施設入所を望んでいるのならそれでいいのでは」と発言していましたが、杉田の質問によって本人の状況を客観的に把握し、「施設入所までは、現状では必要ないのかも」と考えが変化してきています。</p> |
| 【10】 | <p>山村（保佐） 意思決定支援ミーティングの提案</p> | <p>杉田（中核） <u>「南さんへの反発や暴言には、本人なりの理由があるのかもしれませんがね。」</u> それに、漠然とした将来への不安もおありなのかもしれませんし。」</p> <p>山村（保佐） 「今日は、北川さんはこういう場を嫌がって出席してないんですが、一度本人を交えてその意思を確認したいと思ってまして、<u>意思決定支援ミーティングというものを開催したいんです。」</u></p> <p>東条（ケア） 「意思決定支援ミーティング？」</p> | | <p>●杉田発言は、本人の立場から本人の気持ちを想像し、それをミーティングで共有しています。</p> <p>●意思決定支援についての経験は浅い山村ですが、ガイドラインを読んで「意思決定ミーティング」が単なる形式的な手順ではなく、意思決定支援にあたって重要なポイントであることを知識として持っています。そして、今が、それが必要な局面なのではないかと考えて、開催を提案しています。</p> |

| | | | | |
|------|-----------------------------|---|--|--|
| 【11】 | ○ナレーション | <p><ナレーション></p> <p>「本来ここでは、北川さんの気持ち、生活状況をよく知るために、支援者が話し合いを続けていくのが自然です。しかし今回は「意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン」におけるプロセスへの理解を深めるための作成事例ですので、流れをショートカットし、意思決定支援ミーティングに話を展開させています。」</p> | | <p>●「意思決定支援ミーティング」の開催が、本人の施設入所を正当化するために「とりあえずやっておく」ということにならないように、注意する必要があります。</p> |
| 【12】 | 「意思決定支援を踏まえた後見事務に関するガイドライン」 | <p>山村（保佐）</p> <p><u>「このガイドラインにもとづいて、会議を開催したいんですけど。」</u></p> | <p>●意思決定支援ミーティングは、支援者の意見の対立の中にあって、本人の意思を中心に据えて整理して解決していくために役立つものです。ガイドラインと</p> <p>【様式1 個別課題発生時における意思決定支援のためのアセスメントシート】を活用すると、具体的な提案が可能となります。</p> | |
| 【13】 | | <p>杉田（中核）</p> <p><u>「『サービス全部やめ』という本人の言葉には、何か特別な意図があるのかもしれませんが、本人なりのSOSなのかもしれません。意思決定支援ミーティング、やってみませんか？」</u></p> <p>東条（ケア）</p> <p>「ずっと今のままっていうわけにはいきませんからね。」</p> | | <p>●杉田は、これまでも支援者側から見える課題だけでなく、本人の立場や気持ちも想像した話し合いとなるよう、質問を繰り返しました。ここでの杉田の発言は、その内容を踏まえて、更に本人の意思に近づくことを目的として意思決定支援ミーティングの開催を勧めています。</p> |
| 【14】 | ○ナレーション | <ナレーション> | | |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | <p>「支援者の安心や都合のために、本人の意思決定を迫るということは、本来はあってはならないことです。「しばらくこのまま」が良いのであれば、あえてここで決めずに積極的に見守りタイミングを待つということも十分考えられます。しかし今回は意思決定支援ミーティングに向けたプロセスを理解するための演習ですので、具体的な検討に入ります。」</p> | | |
|--|--|--|--|--|

■ ■ 場面 1 - 3 : 意思決定支援ミーティング開催に関する具体的な検討

| No | シーン・状況 | セリフ | ガイドラインとの関係性 | 支援上の工夫点等 |
|------|--|---|--|--|
| 【15】 | <p>手元の冊子 「意思決定支援を踏まえた後見事務に関するガイドライン」 山村（保佐） 資料を見せながら、杉田（中核）に話しかける</p> <p>杉田（中核） 資料を説明する（原則の説明）</p> <p>山村（保佐）</p> | <p>山村（保佐） 「実は私、このガイドラインによる会議をするのははじめてなんです（杉田を見る）。」</p> <p>杉田（中核） 「まずはじめに、ガイドラインでは障害の程度にかかわらず、<u>すべての人には自分で自分のことを決めていく力があるというのが、大前提です。</u>」</p> <p><u>私たち支援者は、本人にとって必要な情報を提供して、意思や考えを引き出すのが役割です。</u></p> <p>東条（ケア） 「意思を引き出す…。」</p> <p>山村（保佐）</p> | <p>●ガイドライン p.8 「②支援環境の調整・開催方法等の検討」本人を交えたミーティングに先立ち、支援者が話し合いをしています。このような「支援環境の調整・開催方法の検討」のミーティングの形態についての決まりはなく、様々な既存のミーティングを使った形で開催することができます。</p> <p>●ガイドライン p.3の第1原則「全ての人は意思決定能力があることが推定される」を、分かりやすく説明しています。</p> <p>●ガイドライン p.2の「本人に必要な情報を提供し、本人の意思や考えを引き出すなど、後見人等を含めた本人に関わる支援者らによって行われる、本人が自らの価値観や選好に基づく意思決定をするための活動」から、支援者の役割を説明しようとしています。</p> | <p>●「意思を引き出す」という役割には注意が必要です。「本人の意図しない意思を引き出す」ということではありません。本人の言い出せない思いを共有していく、不明確なところを一緒に考えて明確にしてい、あるいは混乱や大きな感情的動揺、反発などがあるために、本人の意思を表明するための前提が整っていないところから環境を整</p> |

| | | | | |
|-------------|---|--|--|---|
| | <p>アセスメントシートを広げながら</p> | <p>「アセスメントシートがありますので使ってみましょう。」</p> <p>杉田（中核） まずは、『<u>安心できる時間、場所、開催方法の検討</u>』です。――北川さんが落ち着ける場所って、どこですか？」</p> | <p>●【様式1】を提示しています。この様式を用いて話し合いをすることで、ガイドライン p.9～10 の内容について話し合えるようになっていきます。</p> | <p>え、気持ちを受け止めて解きほぐしていくなどの方法をとることで、本人の意思が表明されていきます。</p> <p>●本人が安心できる時間、場所、開催方法などの環境要因を配慮して、本人が話しやすく、意思表示しやすい状況をつくりだします。</p> |
| <p>【16】</p> | <p>山村（保佐） ○アセスメントシートの「場所」を記入</p> | <p>西野（デイ） 「デイではホールや食堂ではなく、事務所に来られますので、人がたくさんいる場所は苦手なんじゃないかと思います。」</p> <p>杉田（中核） 「<u>自宅はどうですか？</u>」</p> <p>東条（ケア） 「<u>おうちに人が来るのは好きみたいですよ。訪問すると、座布団を出してくれたり、今度いつ来るの？ってよく聞かれます。</u>」</p> <p>杉田（中核） 「<u>そうなんですね。自宅がよさそうですね。</u>」</p> <p>東条（ケア） 「では次会ったときに聞いておきます。」</p> <p>杉田（中核） 「お願いします。」</p> | <p>●意思決定支援ミーティング開催のあり方について話し合う演習をしているため、このように話を進行しています。</p> | <p>●このような情報がある場合には、福祉サービスの事業者による支援に限定せず、近所の方や民生委員、社会福祉協議会の見守りボランティア等とのかかわりを増やす検討をすることも考えられます。そのためにも、本人の日頃の生活について知り、地域の社会資源に詳しい機関（地域包括支援センター、基幹相談支援センター、社会福祉協議会など）と、つながりを持っておくことが重要です。</p> |

| | | | | |
|-------------|---|--|---|---|
| <p>【17】</p> | <p>山村（保佐） ○アセスメントシートの「時間」を記入</p> | <p>杉田（中核） 「次に、会議の時間は何時ごろがいいでしょうか？」 西野（デイ） 「早寝早起きで、朝 6 時くらいには起きています。午後よりも朝のほうが、比較的穏やかかな。」 杉田（中核） 「じゃあ午前中がよさそうですね。」</p> | | |
| <p>【19】</p> | <p>山村（保佐）ガイドラインを見ながら ○コミュニケーション方法→「絵カード」 ○コミュニケーション方法→「絵カードのやり取りをしている写真」</p> | <p>山村（保佐） 「一次は『本人が望むコミュニケーション方法』の検討です。」 東条（ケア） 「コミュニケーション方法？」 杉田（中核） 「たとえば、文字が苦手な絵やマークのほうが理解しやすいとか。文字よりも音声や映像のほうが頭に入りやすいとか。コミュニケーション方法って本人によって得意なものがあるんですか？」 山村（保佐） 「北川さんのお話、時々全然違う方向に行ってしまうんです。会話だけでは難しいと思いますが、何かいい方法ってありますか？」</p> | <p>●ガイドライン p9<ミーティング開催に当たっての留意事項>本人は、どのようなコミュニケーションの方法を望んでいるか参照</p> | <p>●研修教材 p29~30：コミュニケーション方法の手法の例を参照</p> |

| | | | | |
|--|---|--|--|--|
| | <p>山村 ○アセスメントシートに「北川さんノート」と記入</p> <p>○ホワイトボード 「警備、パトロール、仕事」</p> | <p>東条（ケア） 「あの一、北川さん、<u>いつもノートを持って何か書いているんですよね</u>」</p> <p>西野（デイ） 「あのノート、パトロールの記録をつけているって言ってましたけど、それだけじゃないんですね。」</p> <p>東条（ケア） 「パトロールといえば、北川さんの家の近所に救急車が来たことがあったんですよ。北川さん、サイレンの音を聞いた途端、飛び出して行って、交通整理をはじめたんですよ。そしたら救急隊もまわりの人も『北川さん、いつもありがとうね』なんて言ってました。」</p> <p>杉田（中核） 「<u>警備の仕事に誇りをお持ちなんですね</u>」</p> <p>杉田（中核） 「ところで、北川さん、入院前は<u>何度かてんかんによる発作で救急車を呼んでいたそうなんですけど、退院後はどうですか？</u>」</p> <p>山村（保佐） 「保佐人に就任した時ですけど、主治医から、薬が北川さんに合ったようだと言っています。」</p> <p>東条（ケア）</p> | | <p>●東条の発言が、前半の一人暮らしリスクを強調した発言から、本人のプラスの面に着目した発言に変化しています。杉田が、本人の発言や行動を本人の立場からとらえ、肯定的に受け止めて共有してきた結果であると考えられます。</p> <p>●杉田の発言は、支援者の発言を肯定的に受け止めて、本人にとってのパトロールの意味や価値を想像し共有することを促しています。</p> <p>●杉田は、本人の持病について支援者の心配ごとの状況を確認しています。持病の状態について確認することで、「自転車心配、だから施設入所へ」という支援者がマイナス要因と捉えている事柄について、客観的なリスク評価をしようとしています。</p> |
|--|---|--|--|--|

| | | | | |
|-------------|--|---|--|--|
| | <p>○ホワイトボード 「確認：薬の管理、Dr.へ」</p> | <p>「そういえば退院後には発作起きていませんね。」 山村（保佐） 「再度病院に確認してみます。」 杉田（中核） 「(ホワイトボードを見ながら) 北川さん、<u>近所の方を守るためにパトロールしていらっしゃるつもりなのかも。</u>」</p> | <p>●一連の杉田の行動は、ガイドライン p.3 の第3原則「一見すると不合理に見える意思決定でも、それだけで本人に意思決定能力がないと判断してはならない」に基づき、本人の意思決定を読み解こうとする行動です。</p> | <p>●また、リスクやマイナスに捉えているひとつひとつを本人の立場から整理することにより本人の気持ちや考えを想像し、その内容を共有しています。</p> |
| <p>【20】</p> | <p>○ホワイトボード 「ヘルパー松本さん」</p> <p>○ホワイトボード 「インコ」</p> | <p>西野（デイ） 「なんか、北川さんの気持ちに近づいたような感じがしますね。」 (一同うなずく) 東条（ケア） 「そういえば、<u>北川さん、『ヘルパーの松本さん』のことをよくお話しされています。松本さんがこうしてくれたとか、松本さんもインコ飼ってていつもその話をしているんだとか。</u>」 西野（デイ） 「北川さん、<u>インコのピーちゃん、すごくかわいがっていますよね。</u>」 山村（保佐） 「松本さんというのは、以前利用されていた、障害福祉のヘルパーさんですよ。」 東条（ケア） 「ええ。一番仲が良かったかもしれませんね。」</p> | | <p>●本人の日常をひとつひとつ検証することで、様々なことが見えてきました。ここで、「ヘルパー松本さん」と「インコのピーちゃん」の話題が初登場します。本人にとってとても重要な存在であることが認識されました。</p> <p>●支援者も知っていながらこれまで着目してこなかった事柄が、「本人が好きなこと、大事にしてきたこと」を中心に情報を考えなおすことによって評価されています。ここで、本人への見方が「危険な行動をする対応困難な人」から、『何か』や『誰か』を大切にしてきた人であり、大切にされてきた人』である、というように転換していきます。</p> |

| | | | | |
|------|----------|---|--|--|
| 【21】 | ○ホワイトボード | <ナレーション> 「支援チームはこのあとも話し合いを続けました。そして、保佐人の山村と権利擁護センターの杉田が、北川さんの自宅へ出向き、意思決定支援ミーティングについての趣旨説明を行うことを決めました。」 | | |
|------|----------|---|--|--|

参考：

<ガイドライン参考事例 原文>

【意思決定支援ミーティング開催の提案】

サービス担当者会議（本人は嫌がって欠席）に出席した保佐人は、本人と一緒に今後のことを決める意思決定支援ミーティングの開催を提案。ケアマネジャーやデイサービスの相談員は提案にとまどっていたものの、【全部止め】という本人の言葉は、本人なりのSOSではないかと伝えると、支援者からの同意が得られた。

【支援環境の調整・開催方法等の検討】

サービス担当者会議の終了後、中核機関も加わって、意思決定支援ミーティングの開催方法等の検討を行った。

ケアマネジャーから入院・入所の提案があったが、デイサービスの相談員からは「看護師に対して怒鳴りつけるが、それ以外の職員や利用者に対して怒鳴るということはない。入所は早いのでは？」という意見も出され、本人を交えたミーティングの実施が決定した。意思決定支援ミーティングの開催趣旨や、留意点、工夫すべき点を話し合い、以下を決定した。

- 話し合いの中身が本人に分かりやすいよう、ホワイトボードシートを用いる。説明する際には目で見えて理解ができるよう、パンフレット等を用いる。
- 本人の意思がゆらぐ可能性があるため、その場で決定を強要しないようにする。
- 本人がどのように生活したいと思っているかという希望や選好について話してもらった上で、その生活を支えるためのサービス利用を検討する。本人に質問するときは、回答を強要しないよう、できるだけ「開かれた質問」で尋ねる。
- 本人の自宅で、活動的な時間帯である午前中に開催することを提案する。
- ケアマネジャーより、本人がかつて使っていたホームヘルプサービスの事業所に、本人がどのような状況だと安心して話ができるのかを、問い合わせる。

■ ■ ■ 場面2 「本人への趣旨説明とミーティング参加の準備」



【構成】

- 2-1：自宅訪問、アイスブレイク
- 2-2：意思決定支援ミーティング趣旨説明
- 2-3：本人の参加意思確認

【登場人物】

北川…本人

北川太郎 66 歳。要介護 1。軽度知的障害、てんかんがあり、療育手帳を所持。要介護 1 で年金と生活保護を受給中。2018 年、てんかんのため入院。退院前に病院から市の権利擁護センターに相談があり、成年後見の支援を受けるようになった。

山村…保佐人

杉田…市の権利擁護センター担当者（中核機関）

■ ■ 場面 2 - 1 自宅訪問、アイスブレイク

| No | シーン・状況 | セリフ | ガイドラインとの関係 | 支援上の工夫点等 |
|-----|----------------------------------|--|---|---|
| 【1】 | <本人宅へ訪問：玄関> | 山村（保佐） 「こんにちは～」 北川（本人） 「おーい！」 杉田（中核） 「北川さん、お邪魔します。」 | ●場面 2-1～2-3 の一連の流れは、ガイドライン p.10～の「本人への趣旨説明とミーティング参加のための準備」に対応します。 | |
| 【2】 | <山村、杉田訪問、顔合わせ> | 杉田（中核） 「北川さん、お久しぶりです。」 北川（本人） 「おお！」 杉田（中核） 「覚えていてくださいました？」 北川（本人） 「久しぶり」 杉田（中核） 「お元気でしたか」 北川（本人） 「うん」 | | |
| 【3】 | 「インコ談話」 杉田 インコの声・羽ばたき音に気づく | 杉田（中核） 「あ、 <u>セキセイインコ</u> ですか？あの子（カゴに近づく）」 北川（本人） 「ピーちゃんって言うんだ。かわいいだろ？」 杉田（中核） 「かわいいですねえ。」 | ●様式 1 の記入例の「II.支援環境の調整等」の「決定事項、役割分担、今後の動き方」に従って、「本人の選好」を確認しています。 | ●場面 1 の支援チームのミーティングで、本人がインコ（ピーちゃん）をかわいがっているという情報を共有しました。そこで、アイスブレイクも兼ねてピーちゃんの話から会話に入り、ピーちゃんが好きな理由なども含め、本人の選好を把握しようとしています。 |

| | | | | |
|-------------------------|---|--|--|--|
| <p>山村（保佐） 口火を切る</p> | <p>北川（本人） 「一緒にお話ができるのがいいんだ。」 杉田（中核） 「へえ～ どんなお話をするんですか？」 北川（本人） 「呼ぶとね。返事をするんだよ。」 杉田（中核） 「へー、すごい！ピーちゃんお利口ですね。」 北川（本人） 「でもね、ピーちゃんオレがいないとダメなんだよ。寂しがるからね。」 山村（保佐） 「あの、北川さん、ちょっと今日は相談があるんですよ。相談。」</p> | | | |
|-------------------------|---|--|--|--|

■ ■ 場面2 - 2：意思決定支援ミーティング趣旨説明

| No | シーン・状況 | セリフ | ガイドラインとの関係 | 支援上の工夫点等 |
|-----|------------------|---|------------|---|
| 【4】 | <どんなふうに毎日過ごしたい？> | <p>杉田（中核） 「<u>今日お邪魔したのは、北川さんのこれからのことについて、相談させて頂きたいと思っています。</u>」</p> | | <p>●意思決定支援会議への出席について本人の意思を確認する際に、いきなり具体的な選択肢を示してしまうと、誘導や押し付けになりかねません。そうならないような工夫が必要です。杉田は「これか</p> |

| | | | | |
|--|--|---|---|---|
| | | <p>北川（本人） 「これからのこと？」</p> <p>杉田（中核） 「はい。<u>どんなふうに毎日を過ごして頂いたらいいかな</u>と思ってるんです。」</p> <p>北川（本人） 「毎日、ちゃんとやってるよ。」</p> <p>杉田（中核） 「ごはんは、どうですか？」</p> <p>北川（本人） 「食べてるよ。ちゃんと栄養に気を付けて。」</p> <p>山村（保佐） 「さすが、元料理人ですね。」</p> <p>杉田（中核） 「どんなお料理なさるんですか。」</p> <p>北川（本人） 「うーん。いろいろ。」</p> <p>杉田（中核） 「<u>いろいろ</u>ですか。——じゃあデイサービスは、どうですか？ 楽しいですか？」</p> <p>北川（本人） 「毎日行ってるよ。朝も夕方も。パトロールも…。でも…。」</p> | <p>●様式1の記入例の「II.支援環境の調整等」の「決定事項、役割分担、今後の動き方」に従って、「今後の生活についての本人の希望」を把握するために、どのように毎日を過ごすことを望んでいるのかについて、平易な言い方でヒアリングを始めています。</p> | <p>らのことについて相談したい」という形で話を開始しています。</p> <p>●選好だけでなく、服薬や食事、入浴や清掃など、保健衛生や健康にかかわる現状を把握しています。</p> <p>●杉田は、本人の語尾にある「いろいろ」という言葉を繰り返すこと（エコーイング）によって、本人の気持ちを受け止めていることを伝え、話を続けています。</p> |
|--|--|---|---|---|

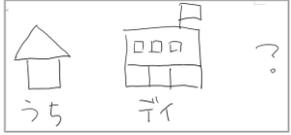
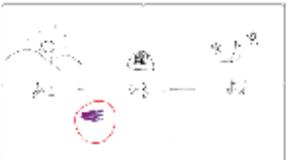
| | | | | |
|--|----------------------------|--|--|---|
| | <p>北川、怒り。机をたたいて 大声</p> | <p>杉田（中核） 「でも？ 何かありました？」 北川（本人） 「南ってヤツが、邪魔するんだ。」 杉田（中核） 「<u>どんな風に邪魔するんですか？</u>」 北川（本人） 「<u>あいつ、オレの自転車や薬を取り上げようとしてるんだ。うるさいんだ。どうせオレは何もできないって決めつけてるんだよ。</u>」 杉田（中核） 「<u>それは困りますね。</u>」 北川（本人） 「そうだよ。自転車はパトロールにいるだろ、ピーちゃんの餌も買いに行かないとだろ。食べ物も自転車のこともうるさい。だから、もうデイなんかもう全部いらない！」</p> | | <p>●杉田は、ここでも本人の「邪魔する」という言葉をエコーイングして、話を引き出そうとしています。</p> <p>●ここでは「困りますね」と本人に共感することで、自転車に乗ることの必要性や思い、自転車に乗れなくなることにより本人はどのように困るのかについて把握しようとしています。</p> <p>「自転車に乗る」ことに関して、介護者と本人の認識は食い違っています。危険だと考える介護者・支援者たちは本人に乗らせないようにしようとしています。しかし、本人から見れば、必要だから乗っているのにそれを理不尽に取り上げら</p> |
|--|----------------------------|--|--|---|

| | | | | |
|------------|--|--|--|--|
| | | | | <p>れてしまうように感じていることが、会話から把握できています。</p> <p>第三者から見て、本人の希望する選択肢が明らかに不利な方法であったり、本人にとってリスクが大きいと考えられる場合は、それぞれの選択肢から得られる「本人にとってのメリット」と「本人にとってのリスク」のトレードオフ（相反）を本人がどのように認知しているかを、丁寧に確認する必要があります。</p> |
| <p>【5】</p> | <p>間、インコの声（羽音） 杉田（中核） 笑顔でうなずいている 山村（保佐） 固唾をのんで見守る 北川（本人） 怒り鎮静、荒い息が徐々に 静まってくる</p> | <p>杉田（中核） 「(おだやかに) 北川さん、<u>お薬のことも、お聞きしていいですか？</u>」</p> <p>北川（本人）</p> | <p>●ガイドライン p10(3)「本人としては、課題についての自分の思いを聞いてもらうことが会議に向けた心の準備になることもあるため、本人が何か課題について思いを伝えようとしている場合には、本人の話に耳を傾けることも重要である。」</p> | <p>●杉田は、感情が激した本人をなだめたり否定したりせずに、笑顔でその気持ちを受け止め、気持ちが落ち着くのを待っています。</p> <p>●本人の気持ちが収まるのを待って、話題を変えています。デイサービスにおいて自転車の鍵を預かろうとした件に関しては、この後触れていません。</p> |

| | | | | |
|------------|--|---|--|--|
| | <p>○薬の箱・中身 日付ごとに薬が分けてきちんと整理されている。</p> <p>山村（保佐） のぞき込んで驚く</p> | <p>「そうだよ、お薬はとても大切だろ。だから、母ちゃんに教えてもらったとおりに、ちゃんと飲んでるんだよ。それなのに…。」</p> <p>杉田（中核） 「へえ、お母さんに教えてもらったやり方があるんですか？」</p> <p>北川（本人） 「そうだよ。母ちゃんがちゃんと教えてくれたんだよ。ちゃんと出来ているんだよ。ほら！（机の上にある薬の箱を開ける）」</p> <p>山村（保佐）「え、すごい…。」</p> | | |
| <p>【6】</p> | | <p><ナレーション></p> <p>「実際はこのように、すぐにノートや薬が出てこないことがあると思われます。今回は演習時間に限りがあるので、ノートや薬がすぐに出てきています。」</p> | | |

| | | | | |
|------------|------------------------------------|--|--|--|
| <p>【7】</p> | <p>○北川（本人）ノート ページには、服薬の記録。</p> | <p>北川（本人） 「ちゃんと薬はひとりで飲んでいる。ノートにも、ちゃんと書いている（北川、ノートを開いて、バン、とたたく）」 杉田 「すごい、北川さん。ほんとできてますね。」 山村（保佐） 「私たち、北川さんのそういう気持ちが、ちゃんとみんなに伝わるように、話し合いをしたいと思っているんです。」 杉田（中核） 「そう。北川さんが、薬やピーちゃんのことちゃんとできてるっていうこと、<u>今みたいに、私たちに教えてもらわないと、分からないんです。</u>」 北川（本人） 「そう、ちゃんとやってるんだよ。」 山村（保佐） 「じゃ、<u>それをみんなに分かってもらえるように話し合いませんか？ 北川さんがこうしたいんだっていうことを伝えてみるのはどうでしょうか。</u>」 北川（本人） 「じゃあ…話し合い、する。」</p> | <p>●山村のこの発言は、ガイドライン p10 「(3) 本人への趣旨説明とミーティング参加のための準備」の本文に記載されている「あらかじめミーティングの趣旨を説明しておくことが必要」の部分に当たります。</p> | <p>●杉田も山村も、本人が服薬のノート管理をきちんとしていることに驚いていません。こういうことは、本人から教えてもらわないと介護者・支援者にはわかりません。このことを本人に伝えていきます。そして、次の「みんなに分かってもらえるように話し合いませんか、伝えませんか」という発言に続きます。</p> |
|------------|------------------------------------|--|--|--|

| | | | | |
|------------|---|---|--|--|
| <p>【8】</p> | | <p><ナレーション> 「実際はこのように、本人がすぐに自分の意思を表現できない場合が多くあると思われます。本人の言葉の表出をしっかりと待ったり、写真やツールを使って、コミュニケーションをとるという方法も有効です。」</p> | | <p>●研修教材「信頼関係の構築：さまざまなコミュニケーション手法」p30 参照</p> |
| <p>【9】</p> | <p>○話し合いのメンバーの選定</p> <p>杉田（中核）スケッチブックを取り出して開く</p> | <p>山村（保佐） 「（うなずく）わかりました。」 北川（本人） 「でも南はダメだ。あいつは薬を取り上げるから。」 山村（保佐） 「なるほど…じゃあ、相談員の西野さんは？」 北川（本人） 「西野ならいい。」 山村（保佐） 「わかりました。」 杉田（中核） 「西野さんですね。（スケッチブックを示す）北川さん、<u>ここに書いてもいいですか？</u>…にしおさん（スケッチブックに書きながら読みあげる）。」</p> | <p>●【9】【10】は、ガイドライン p10 「(3) 本人への趣旨説明とミーティング参加のための準備」の本文「支援チームのメンバー、環境整備、開催方法を検討していく過程」です。スケッチブックを用いてわかりやすく本人に説明し、本人とともに決定しています。</p> | <p>●研修教材 p78 環境整備に関する後見人の役割・関与の参照</p> |

| | | | | |
|-------------|--|--|--|--|
| | | <p>北川（本人） 「(うなずく) あと、えーっと、松本さんは？」 山村（保佐） 「ヘルパーの松本さんですか？ <u>以前こちらに</u> <u>来ていた方の。</u>」 北川（本人） 「うん。松本さん、いいなあ。」</p> | | <p>●現時点で関わっていない人と呼んではいけないという決まりはありません。最初から決めつけしないで、丁寧に確認します。</p> |
| <p>【10】</p> | <p>○話し合いの場所</p> <p>○スケッチブック</p>  <p>○スケッチブック</p>  | <p>杉田（中核） 「それから北川さん、話し合いの場所なんですけど、どこがいいですか？」 北川（本人） 「うーん…。」 杉田（中核） 「(スケッチブックに書きながら) おうちと、デイサービスの会議室か、それとも、違う場所…どこがいいですか？」 北川（本人） 「(「うち」を指す)」 杉田（中核） 「おうちですか？」 北川（本人） 「(うなずく)」 杉田（中核） 「はい (○を書く)」</p> | | <p>●研修教材「信頼関係の構築：さまざまなコミュニケーション手法」p30 参照</p> |

| | | | | |
|------|--------|--|--|---|
| | | <p>北川（本人） 「(スケッチブックをのぞき込む)」</p> <p>杉田（中核） 「時間なんですけど、朝ごはんのあとと昼ごはんのあと（示しながら）、どっちがいいですか？（ペンを渡す）」</p> <p>北川（本人） 「(午前にぐるぐる線を描く)」</p> <p>杉田（中核） 「朝ごはんの後ですね（午前に大きく○を描く）。」</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ●丸○を描いて残すことで、決定したことが後から分かるように（本人にも思い出せるように）しています。 ●決まったことを杉田が全部書くのではなく、本人が選択しているのだという実感が持てるように、本人にペンを渡しています。 |
| 【10】 | <話し合い> | <p>杉田（中核） 「じゃあ、話し合いのために、<u>北川さんが生活の中で大切に思っていること、教えてもらえますか？</u>」</p> <p>北川（本人） 「オレが大事なのはピーちゃんなんだよ。ピーちゃんが心配なんだ」</p> <p>杉田（中核） 「ピーちゃんですね。ピーちゃんのお話し、<u>もっと教えてください</u>」</p> <p>北川（本人） 「(乗り出す) うん、あのね、ピーちゃんはね、<u>お兄ちゃんが貰ってきたんだ。でもお兄ちゃん</u></p> | | <ul style="list-style-type: none"> ●ミーティングの場において、本人が大切にしている思い、価値観を本人自身が伝え、かつ、支援者間で共有できるように、本題に入る前にこの点を確認しています。 ●「もっと教えてください」と言って、本人の思いや価値観を、本人が自由に語れるように促しています。 ●大好きなピーちゃんの話が本人が語ることで、本人の豊かな生活の様子が見え |

| | | | | |
|------|---|--|--|---|
| | | はぜんぜんお世話をしないんだ…… (フェードアウト)」 | | てきます。本人の選好を知り、生活を知ること、生活上の課題を検討する際にも、本人の選好や価値観に沿った選択肢を含めて豊かに提示できるようになります。 |
| 【11】 | Q 演習 背景スケッチブック 「好き/嫌いを確認したのはなぜ？意思決定支援との関わりは？」 | <ナレーション> 北川さんの話は実際にはまだまだ続きますが、演習映像のためここでショートカットします。 <演習> なぜ北川さんの好きなこと嫌いなことを確認したのだと思いますか？意思決定支援とどのように関わるのかを考えてみましょう。 | ●ここでは、今後の意思決定支援に向けた情報を収集しています。本人の選好を知ること、本人の意向や価値観を踏まえた選択肢の検討ができるようになります。また、本人の意思推定等をせざるを得ない局面においても、これらの情報が推定の際の重要な根拠となる場合があります。 | ●研修教材 p36 意思表示支援のチェックポイントも併せて確認しましょう |

■ ■ 場面2-3：本人の参加意思確認

| No | シーン・状況 | セリフ | ガイドラインとの関係 | 支援上の工夫点等 |
|------|--------|--|------------|---|
| 【12】 | | 山村（保佐） 「――北川さん、デイサービスって、ほんとに止めたいたいですか？」 北川（本人） 「デイサービスはイヤだ。ばあさんばっかし。それに、ピーちゃんが寂しがる」 | | ●山村（保佐）の「デイサービスってほんとに止めたいたいですか？」という質問に対して、本人は、南看護師とのトラブル（場面2-2）や、利用者が年配女性ばかりであることを挙げて、デ |

| | | | | |
|--|---|---|---|---|
| | <p>北川（本人） （急に立ち上がり、どこかに行ってしまう）</p> <p>山村（保佐）、杉田（中核）、 うなずき合う</p> | <p>山村（保佐） 「パトロールはどうしますか？」</p> <p>北川（本人） 「パトロールは行くよ。毎日警備しないと。」</p> <p>山村（保佐） 「それは続けたいんですね。」</p> <p>北川（本人） 「うん。」</p> <p>山村（保佐） 「お出かけは？」</p> <p>北川（本人） 「自転車がいい。それにスーパーにマカロニサラダを買いに行く。ピーちゃんの餌もあるしね。」</p> <p>山村（保佐） 「自転車ですね。ところで、<u>話し合いのことなんですけど…。</u>」</p> <p>北川（本人） 「あ、ピーちゃんの餌！ ピーちゃん、ピーちゃん」</p> <p>杉田（中核） 「（山村へ）<u>今日はここまでにしたほうがよさそうですね</u>」</p> | <p>●今回の面談で把握できた内容を、様式1 記入例「Ⅲ.ミーティング前の本人への趣旨</p> | <p>イサービスをやめたいと思う理由を表明しています。</p> <p>つまり、こうした本人の心配ごとが解決すれば、デイサービスに通うこともありえます。</p> <p>また、たとえばデイサービスと訪問介護、その他の社会資源等を組み合わせることで、本人が希望する自宅での生活を継続できる環境が構築できる可能性もあります。</p> <p>●デイサービスに行くか行かないかの二者択一ではなく、デイサービスでのサービス内容や対人関係を調整し、たとえばパトロールのついでに食事だけでも立ち寄ってもらったり、トラブルのある南看護師以外のスタッフが服薬時に対応するなどの補完によって、本人がデイサービスに通いつつ、自宅でのひとり暮らしを継続できる可能性があるかもしれません。</p> |
|--|---|---|---|---|

| | | | | |
|-------------|--|---|-------------------------------------|---|
| | | | <p>説明」の「本人の考え 意見や希望」においてまとめている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●立て続けに質問してしまい、尋問のような印象にならないような心がけが必要です。 ●打ち合わせは本人あつてのものなので、「今日はここまで」と話を強制させないように配慮します。 |
| <p>【13】</p> | <p><帰路の山村（保佐）、杉田（中核）（歩きながら）></p> | <p>杉田 「それにしても、北川さん、本当にピーちゃんのこと大好きでしたよね（思い出し笑い）。家族みたいに大切に思ってるんですね。」</p> <p>山村 「ええ。ピーちゃんにも、ずっと元気でいてほしいです。」</p> <p>杉田 「そうですね。今の北川さんの気持ちは、おうちでピーちゃんと暮らすことをとっても大切に思っていましたよね。」</p> <p>山村 「そうですね」</p> <p>杉田 「でも、できていることが少しずつできなくなったり、将来への不安から、気持ちは変わるかもしれません。」</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ●人の気持ちは移り変わるものです。意思決定の内容にもよりますが、一度決めたことを必ず実行しなくてはならないというものではありません。本人 |

| | | | |
|--|--|---|---|
| | | <p>山村 「そうなんですか。」</p> <p>杉田 「ええ。<u>だから、こうだって思いこんだり、決めつけたりしないで、ちゃんと本人の気持ちに向き合って、その思いに寄り添っていかれたらなって思ってます。</u>」</p> | <p>が一度、何らかの意思を表示したからと言って、それを強制せず、本人の気持ちの移り変わりにも寄り添うことが大切です。</p> |
|--|--|---|---|

(場面2 おわり)

参考：＜ガイドライン事例 原文＞

【本人への趣旨説明】

中核機関職員と保佐人とで本人宅を訪問、「北川さんに必要なお手伝いについて、北川さん自身が決めていくための話し合いをしたい」と話をした。

本人は「母ちゃんに教えてもらったやり方で薬も間違えないように飲んでいる。食べ物のこと自転車のこと口を出されてうるさい。ちゃんとやってるのに」「もう（サービスは）いらんって言うてるのに！」と反応したが、「北川さんにとって、イヤなことが無くなる話し合いをしたいと思ってるんですよ」と説明すると、渋々だが、ミーティング開催を認めた。本人との話し合いの結果、本人の自宅で午前中の時間帯でミーティングを開催することが決まった。ミーティングに出席するメンバーについても相談したところ、デイサービスの職員については「相談員は来てもいい（看護師が来るのはイヤ）」とのことであった。生活の選好については、「インコと暮らしたい」「好きなものを食べて暮らしたい」「自分でできることは自分でやりたい」と思っていること、「自転車で町の中を見て回ること」「インコの世話を一緒に遊ぶこと」を楽しみに思っていて、「家の中でじっとしていること」「インコが死ぬこと」がイヤだと思っていることも分かった。サービスについての希望は「前みたいに、うちに人が来て欲しい。自分がデイサービスに行くのはイヤだ。婆さんばかりいる中に入りたくない」とのことであった。ミーティングで何から話し合うか、どう座るかについても本人と相談することを予定していたが、途中から本人の機嫌が悪くなり、趣旨説明を切り上げた。趣旨説明後、今までの生活や思いを最もよく知る人物に関わってもらった必要性を感じた保佐人は、かつて利用していたホームヘルプサービスのヘルパー事業所にミーティング出席のお願いをすることにした。中核機関職員が日程調整を行い、本人宅で意思決定支援のためのミーティングを開催することとなった。

意思決定支援ドラマシナリオ 場面2 「本人への趣旨説明とミーティング参加の準備」

| Ⅲ. ミーティング前の本人への趣旨説明 (〇月〇日〇時～、本人宅で、別荘で実施) | |
|--|---|
| 説明した人 | 〇〇 〇〇 (係長)、〇〇 〇〇 (中核機関職員) |
| 説明の内容 | ■趣旨説明 ■参加メンバーの選定 ■本人の好みや価値観の把握 ■意思意向の確認 〇〇さんにとらえていやなことがなくなる話し合いをしてほしいことを説明。話し合いは出席したからといって、その場で決めなくても良いことも伝える。 |
| Ⅱで検討した支援の実績 | □実施できた ■実施できなかった (一部実施できなかった) 理由: 本人に、話し合いの順番等を説明し、ミーティング参加者の順番についても相談したいと考えていたが、アイサービスの職員が出席しても良いが帰れた後、機嫌が悪くなり話を続けることが出来ず、二期、実施できなかった。 |
| 本人の考え | インコと暮らしたい、好きな物を食べて暮らしたい、自分でできることは自分でやりたい。 |

【基本原則】

- 第1 全ての人は意思決定能力があることが推定される。
- 第2 本人が自ら意思決定できるように、実行可能なあらゆる支援を尽くさなければ、執行決定に移ってはならない。
- 第3 一貫すると不合理的に見える意思決定でも、それだけで本人に意思決定能力がないと判断してはならない。

| | |
|--------------|---|
| 意見や希望 | 母に教えてもらったやり方で、薬も間違えないように飲んでいる。食べ物のことも自給自足の事も口を出されてはダメ、ケービスはいい。 |
| Ⅱを踏まえどう工夫するか | 説明者からミーティングの趣旨を説明すると、法々了事。(アイサービス職員の出席については) 相談員から来てほしい。 本人の考えをもっとよく知る、かつての支援者に、支援を求めらるるの要否を確認。ケアマネジャーが、以前の訪問介護事業所と連絡をとり、ミーティングに出席可能かどうか打診することとした。 |

■ ■ ■ 場面3 「本人をまじえたミーティング」



【構成】

- 3-1：導入、ミーティングのルール確認
- 3-2：本人の「好きなこと・嫌いなこと」、支援チームの心配ごと
- 3-3：本人希望にもとづき今後の方針を決定

【登場人物】

北川…本人

山村…保佐人

杉田…市の権利擁護センター担当者（中核機関）

東条…ケアマネジャー

西野…デイサービス相談員

松本…北川が以前利用していた、障害福祉サービスにおける居宅介護事業所の元ヘルパー（現在は所長）。インコを飼っているという共通の話題もあり、北川が心を許していた存在。北川の日常生活の様子もよく把握している。

■ ■ 場面 3-1

| No | シーン・状況 | セリフ | ガイドラインとの関係 | 支援上の工夫点等 |
|-----|---|---|--|---|
| 【1】 | <p>「意思決定支援ミーティング 当日」</p>  <p>○東条、松本の登場</p> <p>北川、座布団を置く、ポンポンと座布団をたたく</p> | <p>東条（ケア） 「お邪魔しまーす、ケアマネの東条です。」</p> <p>松本（居宅） 「こんにちはー。北川さん、お久しぶり」</p> <p>北川（本人） 「松本さん、松本さん、ここ、ここ。」</p> <p>松本（居宅） 「あ、ありがとうございます。ピーちゃんも元気だったかな？」</p> <p>北川（本人） 「松本さん。オレもピーちゃんも元気だよ。」</p> <p>松本（居宅） 「あー、よかった、よかった。ありがとう。ありがとう！」</p> | <p>●場面3-1～3-3の一連の流れは、ガイドライン p.10～の「(5)本人を交えたミーティング」に対応します。</p> | |
| 【2】 | | <p>山村（保佐） 「では、そろそろはじめましょうか。」</p> <p>杉田（中核） 「それでは、はじめますね。北川さん、この会議は、北川さんのこれからの生活のことについて話し合いをします。みなさんは、北川さんが話しやすいように協力お願いしますね。」</p> | <p>●ガイドライン p.10 「(5) ①進行方法の工夫」にある「事前の環境調整を踏まえて設定されたテーマ及びミーティングのルール」を、会議の冒頭に確認。会議のテーマとルールを、本人にもわかりやすく説明しています。</p> | <p>●支援チームを固定化せず、本人の意思が形成、表明されやすいよう、その事柄や場面に応じて適切な人に出席を依頼します。ここでは、場面2で本人とともに決めたメンバーに出席を依頼していません。</p> |

| | | | | |
|-------------------|---|--|---|---|
| | <p>北川、張り切って回答</p> | <p>北川（本人） 「はいはい、皆さん、今日はどうぞよろしくお 願いしますよ！」</p> | | <p>●本人と信頼関係のできている人の参加 （この場合は松本）により、本人の意思 が表出されやすくなります。</p> |
| <p>【3】</p> | <p>壁にグランドルールを貼る ○模造紙／ホワイトボード シート <ルール> 1 勝手に決めつけない 2 横はいりしない 3 意見は1分以内 ↑ <話し合いのルール> ①北川さんの気持ちを勝手に 決めつけて話を進めない ②他の人の発言を遮って話 さず、最後まで聞く ③意見をいう時は、できるだ け1分以内で</p> | <p>杉田（中核） 「はい、お願いします。じゃあはじめに、先生、 今日のルールについてよろしくお 願いします （示す）。」 山村（保佐） 「はい、これが<u>今日の話し合いのルール</u>です。 ひとつめ、勝手に決めつけない。ふたつめ、横 はいりしない。みつつめ、意見は1分以内。途 中でみなさんに、ルールを守ってくださいとお 声がけすることもあると思います。――これが 私の役目なんで、よろしくお 願いします。」 全員（うなずく）</p> | <p>●（ガイドライン p10「①進行方法の工 夫」）のミーティングのルールの提示場面 です。「②意思形成支援におけるポイン ト」及び「③意思表示支援におけるポイン ト」についてもチェックポイントとして参 照してください。 ●ガイドライン p11 の中段「後見人等 は、本人の権利擁護者として、本人が意思 決定の主體的として実質的にミーティング に参加できるよう、本人のペースに合わせ た進行を主催者・参加者に促していく」た めに、この事案の場合では、山村がミーテ ィングのルールを示す役割を担います。今 回の進行は杉田が担っています。</p> | <p>●会議のルールを模造紙に書いて示すこ とにより、全員で明確に共有していま す。 これによって、会議の趣旨・目的と異な る発言があった場合に、ファシリテータ トしやすくなります。 また、本人も会議の趣旨・目的を確認で き、安心して発言できるようになるとい う効果があります。</p> |

■ ■ 場面3-2

| No | シーン・状況 | セリフ | ガイドラインとの関係 | 支援上の工夫点等 |
|-----|---|--|----------------------------------|---|
| 【4】 | <p>○ホワイトボードシート <よてい> ①北川さんが好きなこと、嫌いなこと ②みんなのしんぱい ③のぞんでいる生活・サポート ↑ <今日の予定> ①北川さんが好きなこと、嫌いなことは何か？ ②みんなが心配していることは何か？ ③北川さんがどんな生活を望んでいるか？どのようにサポートするか？</p> | <p>杉田（中核） 「では、話し合いの内容と順番を確認していきます。まずはじめに、北川さんの<u>好きなことのお話をお聞きします</u>。2番目に皆さん（支援者を見る）が心配していることのお話をお聞きします。そして最後に北川さんが望んでいる生活と、そのために必要なサポートのことについてお話をしていきたいと思います。」</p> | <p>●ガイドライン p10 「①進行方法の工夫」を参照</p> | <p>●支援者が感じている本人の生活のリスクや課題に焦点を絞ってその点から話し合いを始めると、課題解決のための議論となりがちです。選択肢に本人の選好や意向が反映されにくいいため、提示された選択肢から自分で選ぶことが困難になる場合が出てきます。 この会議では、最初に本人に発言の機会が設けられており、「本人の好きなこと、大切にしていること、できていること」を全員で確認してから、「支援者が感じている生活上のリスクや課題解決に向けた話し合い」をするという順番になっています。この順番で話し合うことによって、本人の選好や意向を反映した選択肢を提示し、本人による意思決定を支援しようとしているのです。</p> |
| 【5】 | <p>○1つ目の議題</p> | <p>北川（本人）</p> | | <p>●松本は、これまでの付き合いから、本人が理解の補助としていつもノート</p> |

| | | | | |
|-------------------------|---|--|--|--|
| <p>北川さんが好きなこと、嫌いなこと</p> | <p>「(ちょっと戸惑い) ええと、何の話をすれば良いのか…。」</p> <p>松本 (居宅)</p> <p>「北川さん、<u>ノート</u>、<u>見てみませんか</u>。いつものノート。」</p> <p>北川 (本人)</p> <p>「ノート？ノートって？このノート (ノートを開く) …。」</p> <p>杉田 (中核)</p> <p>「北川さんが好きなこと、聞かせてください。この間のメモもここにありますがよ (スケッチブックを示す)。」</p> <p>北川 (本人)</p> <p>「(ノートとスケッチブックを見て、何かを思いついた様子で猛然としゃべりだす)</p> <p>あっ、あのね、あのね、僕の好きなのはね、ここにも書いてあるけど、ピーちゃんと遊ぶこと。ごはんを食べたりお話ししたりすること。ピーちゃんは小さくて弱いから、僕がごはんをあげて、ちゃんとお世話しないと死んじゃうかもしれない。野菜もあげないとダメだと思う。この子は、オレが</p> | | | <p>を利用していたことを知っています。</p> <p>したがって、今回の話し合いにあたって、本人がノートに何か書いているのではないかと考えて、ノートを見ることを提案しています。</p> <p>松本は、ノートの特定の場所を読むことを本人に指示したり、強要しているわけではありません。</p> <p>●杉田は、場面2で本人と書いたスケッチブックを見せることで、一緒に話し合ったことが思い出せるように支援しています。</p> |
|-------------------------|---|--|--|--|

| | | | | |
|------------|--------------|--|---|--|
| | | <p>いないとダメなんだよ。いつもお話ししているし、オレを頼りにしているんだよ。ピーちゃんはね、前にお兄ちゃんがもらってきたんだけど、お兄ちゃんはぜんぜんピーちゃんのお世話をしなかったんだ。だからピーちゃんはオレのことが大好きなんだ。それからね、お兄ちゃんは前に死んじゃったんだけど、お兄ちゃんも自動車の会社に勤めていてね。</p> <p>…え、あれ？ 何の話すれば…。」</p> <p>松本（居宅） 「えーっと、<u>ここまで話し、してますよ。</u>（ノートをそっと指さす）」</p> | | <p>●この場面での松本のノート指差しは、ノートの記載と本人の発言の内容とを照らし合せて、本人の記憶喚起を目的として「ここまで話していますよ」と指摘したものです。</p> <p>これも、ノートの特定の場所を読むことを指示して、発言を強要しているものではないことに注意してください。</p> |
| <p>【6】</p> | <p>○薬の管理</p> | <p>北川（本人） 「あ、うん。 えーと、薬のこと？」</p> <p>西野（デイ） 「（身を乗り出す）そう、お薬。北川さん、いつもノートに…。」</p> <p>松本（居宅） 「（西野へ、やんわりと）あの一、いま考え中みたいなんで、もうちょっと（<u>待ってね、というしぐさ</u>）」</p> <p>西野（デイ）</p> | <p>●ガイドライン p12にある「③意思表示におけるポイント」の「決断を迫るあまり、本人を焦らせていないか？」のチェックボックスを参照してください。</p> | <p>●松本の「待ってね」というしぐさによる制止は、西野が、本人が考えているところに割って入りそうになったのを見て、本人の思考が妨げられないように、「待つこと」をやんわりと求めて</p> |

| | | | | |
|--|---|---|--|---|
| | <p>○北川家・居間 テーブル の上の薬箱</p> <p>のぞき込む一同。</p> <p>几帳面に毎日書かれています。</p> | <p>「あー、(ごめんなさい、つい、という様子)」 北川 (本人) 「(考えながらしゃべりだす) 薬は……、えーと、大事だから、ちゃんと母ちゃんに言われたように間違いなく飲んでるよ！」 山村 (保佐) 「こないだ、北川さんの薬箱を見せてもらいましたよね。」 北川 (本人) 「あっ、薬箱……。薬箱ならここにあるよ。はい、どうぞ。」 西野 (デイ) 「え？これ、北川さんが？」 東条 (ケア) 「すごい……。」 北川 (本人) 「(うなずく) そうだよ。母ちゃんが教えてくれたんだ。こういうふうにすると忘れないよーって。それにちゃんとノートにも書いてあるから忘れない！」 西野 (デイ) 「毎日、ちゃんと……。」 松本 (居宅) 「さすが北川さんのノートですね。」</p> | | <p>いるものです。ミーティングの冒頭に示したルール②が活かしている場面です。</p> <p>●「本人ができること」を確認することで、東条や西野の中の本人像が変わっていています。</p> |
|--|---|---|--|---|

| | | | | |
|------------|------------------------|--|--|--|
| | | <p>北川（本人） 「でも…、ノートにレシート貼る方法、オレ、忘れちゃったんだよな。」</p> <p>山村（保佐） 「<u>金銭管理は、私がお手伝いしていますからね。</u>」</p> | | <p>●山村は、本人が金銭管理ができないことを残念に思っているのを理解したうえで、「でも私が支援しているから大丈夫ですよ」という、肯定的なニュアンスで発言しています。</p> |
| <p>【7】</p> | <p>松本から北川の体調について質問</p> | <p>松本（居宅） 「……ねえ、北川さん、<u>今でも時々倒れたりするんですか？</u>」</p> <p>北川（本人） 「ぜんぜん。救急車も呼んでいない（ちょっと誇らしい）。」</p> <p>松本（居宅） 「あ、そう！（笑顔）」</p> <p>山村（保佐） 「病院の先生によると、北川さんは薬の飲み忘れもなく、服薬はできているそうです。実際、退院してから一度も発作が起きていません。」</p> <p>北川（本人）</p> | | <p>●松本は、本人が金銭管理の件で気落ちしているのを見て、話題を転換しています。</p> <p>「最近救急車を呼んでいない」という情報は参加者の中では事前に共有されているため、本人の気持ちがポジティブになるように、あえてこの話題を選んでいきます。</p> |

| | | | | |
|-------------------|--------------------------------------|--|---|--|
| | | <p>「松本さん、色々心配してくれたけど、オレはもう大丈夫だよ。」 松本（居宅） 「よかったねえ。」 西野（デイ） 「お薬預かるなんて言って、ごめんなさいね。」 北川（本人） 「南がうるさいんだよ。」 西野（デイ） 「南もきっと安心すると思いますよ。」 杉田（中核） 「じゃあ、そろそろ次にいきましょうか。」</p> | | |
| <p>【8】</p> | <p>○2つ目の議題 みんなのしんぱい</p> | <p>杉田（中核） 「では、<u>ふたつ目の話し合いの内容</u>です。今度は、サポートする皆さんが心配なことをお話してください。」 東条（ケア） 「やはり今後の暮らしのことですかねえ。ねえ、北川さん、前に私に『施設に入りたい』っておっしゃいましたよね。一人暮らし、やっぱり不安ですよね？」 北川（本人） 「(え？という顔)」 山村（保佐）</p> | <p>●ガイドライン p11 以下の「②意思形成支援におけるポイント」には、「開かれた質問」の推奨や、「本人の理解と支援者らの理解に相違がないか」を確認するための方法について記されています。</p> | <p>●東条は、最初から「閉じた質問」（はい、いいえで答える質問）で、「支援者としての理解」を前提に、本人から入所希望との言質を取ろうとしています。</p> |

| | | | | |
|--|--|---|--|---|
| | | <p>「あ、<u>東条さん、これこれ</u> (ホワイトボードシートを指す)。」</p> <p>東条 (ケア)</p> <p>「あ (やっちゃった、という表情)。」</p> <p>西野 (デイ)</p> <p>「あの一、デイのスタッフが一番心配なのは自転車です。うちの南と険悪になっちゃったのも、カギを預かろうというのがキッカケで。」</p> <p>北川 (本人)</p> <p>「南のやつ、うるさいんだよ！」</p> <p>松本 (居宅)</p> <p>「<u>北川さん、自転車でどんなところ行くんですけどっけ?</u>」</p> <p>北川 (本人)</p> <p>「もちろんパトロールだよ。それから、ピーちゃんの餌も買わないといけないしね。スーパーにマカロニサラダも買いに行くんだよー。」</p> | | <p>このような質問方法は、支援者の意図に沿った形で意思決定を誘導しようとする要素が強く、本人の意思決定に対する不当な影響を及ぼすことになりかねません。</p> <p>●ホワイトボードシートに書かれたルールを参加者が確認しながら進めることによって、ミーティングの趣旨を超えた発言を抑制することができ、目的に沿った議論へと軌道修正することができます。今回は山村が対応していますが、役割分担の方法はチームによって異なります。</p> <p>●松本は、南看護師との自転車のカギを巡るトラブルを思い出して感情が高ぶった本人の様子を見て、本人が楽しく自転車を使っている場面について問いかけを行っています。ポジティブな気持ちになった本人が自転車を使う場面について積極的に語ったことによっ</p> |
|--|--|---|--|---|

| | | | | |
|-----|--------------------------------|---|--|---|
| | | | | <p>て、本人が自転車を普段どのような意図で使っているのかを、参加者が把握できます。</p> <p>このように、「自転車のカギを預かる、預からない」という結論のみに焦点をあてて議論するのではなく、自転車を本人が使う意図やその背景にある選好、価値観に着目することによって、行為の危険性に着目しがちな支援者の視野が広がり、本人の意図を踏まえた新たな選択肢を提案できる可能性も高まります。</p> |
| 【9】 | Q 演習 「どんな場面で会議のルールを活用していたか」 | ナレーション 「映像の中ではどのような会議の場面でルールを活用していましたか？」 | ●ガイドライン p10 以下「①進行方法の工夫」を参照。また、「②意思形成支援におけるポイント」及び「③意思表示支援におけるポイント」についてもチェックポイントとして参照してください。 | ●研修教材 p78 環境整備に対する後見人の役割関与 ●研修教材 p36 表明支援のチェックポイントも併せて確認しましょう |

■ ■ 場面 3-3

| No | シーン・状況 | セリフ | ガイドラインとの関係 | 支援上の工夫点等 |
|------|--------------------------|--|------------|-------------------------------------|
| 【10】 | ○3つ目の議題 のぞんでいる生活・サポート | 杉田（中核） 「では、最後に北川さんが望んでいる生活やサポートについての話し合いを始めたいと思いま | | ●①②③の順番で話し合いをすることで、本人の選好や価値観、意向を踏まえ |

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| | | <p>す。まずはじめに、北川さん、デイサービスはどうですか？」</p> <p>北川（本人）</p> <p>「デイサービスはばあさんばかりだから、やれ、一緒に運動しましょう、一緒に歌いましょう、とかがイヤなんだ。子どもじみてるよ。」</p> <p>西野（デイ）</p> <p>「北川さん、パトロールは？」</p> <p>北川（本人）</p> <p>「行くよ。オレが警備しないと。」</p> <p>東条（ケア）</p> <p>「じゃあ、デイサービスのご飯は？」</p> <p>北川</p> <p>「んー、前食べたときは、うまかったよ。」</p> <p>西野（デイ）</p> <p>「うちのご飯、評判いいんですよ。有名な料理屋さんにいた調理員がいるんです。せっかくパトロールに来てくれているんだから、ぜひ召し上がってほしいんですけど。」</p> <p>北川（本人）</p> <p>「うーん…」（ちょっと心が動いている）</p> <p>松本（居宅）</p> <p>「<u>北川さん、正直な気持ちでいいですよ。</u>」</p> | | <p>た解決方法を考えられるようになりま す。</p> <p>●ここまで、東条と西野は、デイサービス利用を促す方向で話を進めています。そこで松本は、本人に自分が本当に希望する選択をしてよいのだということを強調するために、「正直な気持ち」という表</p> |
|--|--|---|--|--|

| | | | | |
|-------------|--|--|--|--|
| | | <p>北川（本人） 「わかった。食べるときは、ちゃんと言うよ。」 西野（デイ） 「待ってますねー。」</p> | | <p>現で、本人の意思表出をサポートしています。</p> |
| <p>【11】</p> | | <p>東条（ケア） 「あとは、日常生活のサポートなんですけど…。」 （部屋の中を見まわす） 杉田（中核） 「北川さんは、どこで生活したいと思いますか？」 北川（本人） 「もちろん、ここだよ。ピーちゃんがいるしね。」 杉田（中核） 「北川さんは、<u>ピーちゃんと一緒にここのお家で暮らしたい</u>ということですね。この点について、何か皆さんから意見はありますか？」 全員 「(首を振る)」 杉田（中核） 「大丈夫ですね。じゃあ、北川さん、ここで暮らすときにどんなお手伝いがあったらいいと思いますか？」 北川（本人）</p> | | <p>●杉田は、自宅という場所を特定するだけではなく、「ピーちゃんと一緒にここのお家で暮らす」という言い方で、誰と暮らすのかという本人の意向を具体化して確認しています。</p> |

| | | | | |
|------|---------------------|---|---|--|
| | | <p>「お手伝い、お手伝い…（考えている）。あ、あの、あれあれあれ。松本さん、一回うちに来て、あのトイレの…、トイレが暗くなったし。」</p> <p>松本（居宅） 「あー、<u>電気</u>。」</p> <p>北川（本人） 「うん、うん。お風呂場のこれこれこれ。」</p> <p>松本（居宅） 「あー、<u>手すり</u>か。」</p> <p>北川（本人） 「うん、手すり。あれが欲しい。」</p> <p>杉田（中核） 「そうか。じゃあ、トイレの電球とお風呂場の手すりのことですね。」</p> <p>じゃあ、北川さんはここのお家で暮らしながら、松本さんみたいなヘルパーさんに来てもらったり、誰かお家にお手伝いに来てくれることが希望なんですね？」</p> <p>北川（本人） 「うん、ここで住めたらいいなあ」</p> | <p>●このあとは、ガイドライン p12 「(6) 意思が表明された場合」の過程に移ることになります。</p> | <p>●松本は、本人が手振りで表現していることから推測して、言いたいことを言語化し、本人に確認しています。</p> <p>●杉田は、「訪問介護利用」といった抽象的な言い方ではなく、「松本さんみたいなヘルパーさんに来てもらう」「誰かお家にお手伝いに来てくれることが希望」と本人の生活への意向を具体化して確認しています。</p> |
| 【12】 | ○ホワイトボードシート ／模造紙 | ナレーション | | ●場面3-3の最後のナレーションでは、本人がデイサービスで食事をとる気 |

| | | | | |
|------|-----------|--|--|--|
| | (話し合いの結果) | <p>「この日の北川さんとの意思決定支援ミーティングでは、ホームヘルプサービスと訪問看護を導入すること、デイサービスでの活動には参加しないものの、定時パトロールは続けること、デイサービスで食事をとる気持ちになった場合は相談員に申し出ることなどが決まりました。また、気持ちが変わった場合は、北川さんから今日のメンバーの誰かに話をすること、北川さんから話を聞いた人がケアマネジャーの東条に連絡することを申し合わせました。」</p> | | <p>持ちになった場合のサポートも、話し合いの結果に含まれています。</p> <p>●本人の意思の実現のための選択肢が、単に制度のあてはめだけにとどまっていなから、さらに社会資源の活用などの可能性についても十分検討した上で結論を出すことが望まれます。</p> |
| 【13】 | エピソード | <p>山村（保佐） 「今日は、色々話しましたね。家に居たいっていう気持ちがみんなに伝わってよかったですね。」</p> <p>北川（本人） 「そうだな。オレも今日はいっぱい色々な話したけど、<u>でも、オレ、施設行くよ!</u>」</p> <p>山村（保佐） 「えっ!」（驚く）</p> <p>北川（本人） 「<u>じいちゃんになったらね♪</u>」</p> <p>山村（保佐） 「はは。そうですか。」</p> | <p>●ガイドライン p12 「(6) 意思が表明された場合」には、「本人の意思に揺らぎがみられるような場合には、一旦本人が意思を表明した場合であっても、直ちにその実現に移るのではなく、一定期間見守り、表明された意思が最終的なものであるかを確認する必要がある」とあります。ミーティングで決まったことがすべてではなく、その後も本人の意思の変化</p> | <p>●場面2-3でも杉田が述べたように、将来において本人の気持ちは移り変わることもあります。本人のこの発言は、一見するとこれまでとは全く異なる発言をしているように見えますが、「今は自宅でピーちゃんと一緒に過ごしたいという気持ち」と、「将来（じいちゃんになったら）において施設に行ってもいいかなという気持ち」は矛盾しているものではありません。本人もメンバーとのミーティ</p> |

| | | | | |
|-------------|---|--|---|---|
| | | | <p>があるのか、支援者は見守りながら支援をしていく必要があります。</p> <p>●「じいちゃんになったらね」という本人の発言は、この後、本人の推定意思（意思と選好に基づく最善の解釈）を検討する場面において、本人の選好、価値観を把握するための重要な発言の1つとなっています。（「様式3 記入例」参照）</p> | <p>ングを経て、将来のことを考えるきっかけになったものと思われます。</p> |
| <p>【14】</p> | <p>Q 演習 「北川さんが自分の気持ちや意見を言えるようにどんな工夫をしていた？」 「これからの実践で参考にできそうなことは？」</p> | <p>ナレーション 「ガイドラインの p.11～12 には、意思形成支援、意思表示支援におけるポイントが書かれています。 映像の中では、北川さん本人が自分の気持ち、意見を言えるように、どのような工夫を採用していましたか。気づいたことを挙げてください。また、これからの実践で参考に出来そうなことを挙げてください。」</p> | | <p>●出席しているメンバー、ミーティングのルール設定、ホワイトボードシート／模造紙の利用だけでなく、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・席順 ・松本が、本人の話しやすいようサポートし、話題を上手に転換している点 ・本人の「生活への意向」について、杉田が本人の選好、価値観を踏まえて具体化して本人に確認している点 <p>なども、ポイントとして挙げたいところです。</p> |

(場面3おわり)

参考：ガイドライン原文

【意思決定支援のための本人を交えたミーティング】

○月○日9時30分～ 本人宅

出席者：本人、保佐人、中核機関職員、ケアマネジャー、デイサービスの相談員、以前利用していたヘルパー事業所所長、生活保護のケースワーカーは緊急対応のため欠席かつて利用していたヘルパー事業所の所長が来てくれたことに本人は喜び、所長に自分の隣に座るよう促した。会議の冒頭に中核機関職員が「これは、北川さん自身が、これからの生活のことを決めていくための会議です」「北川さんが自分のお気持ちを話しやすいように、皆さん工夫してください」と話すと、本人が「はい、皆さん、よろしく願いますよ！」と挨拶、和やかな雰囲気ですミーティングは始まった。

趣旨説明の際に聞き取った事項を書いた紙を用意し、本人はそれを見ながら、毎日の生活の様子、工夫、嬉しいと思っていること、イヤだと思っていることを自分で説明した。本人の服薬管理方法や主治医の見解を知り、支援チームの中にあった「不安」が解消された。保佐人が、「自転車の事故が心配だから、保険に入っているかどうか？」と損害賠償保険パンフレットで説明をすると本人は乗り気になり、保険加入することになった。本人は、「前みたいに（ヘルパーに）うちに来て欲しい」と要望、ホームヘルプサービスと訪問看護を導入することになった。

| IV. 本人を交えたミーティング (○月○日○時～、本人宅で、会議体で実施) | |
|--|---|
| 参加メンバー | 保佐人、中核機関職員、ケアマネジャー、デイサービス相談員、以前利用していたホームヘルパー事業所の所長 |
| 検討の内容 | ホワイトボードシートとリーフレットを用いて、本人の理解を促進。 趣旨説明時に示された本人の選好、意思意向の表示→服薬管理方法の確認、主治医の見解の確認→サービスについての本人の意向確認→自転車の損害賠償保険の紹介 |
| 支援者の姿勢 (全てチェックが付くように支援する) | <ul style="list-style-type: none"> ■支援者らの価値判断を先行させていない。■本人の理解と支援者らの理解に相違はない。 ■選択肢を提示する際の工夫ができています。■決断を迫るあまり、本人を焦らせていない。 ■本人の表明した意思が、これまでの本人の生活歴や価値観等から見て整合性がある。 ■意見を表明しにくい要因や他者からの「不当な影響」はない。 |
| IIで検討した支援の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ■実施できた □実施できなかった 理由： |
| 本人の考え 意見や希望 | 以前利用していたホームヘルプサービス事業所の参加を大変喜んだ。選好、生活への意向はⅢのまま。(サービスについては)「前みたいにうちに来て欲しい」と変化があった。 |
| 具体的な結論 | 訪問看護とホームヘルプサービスの利用手配を望むようになった。 損害賠償保険の加入することになった。事業者の入所を望む姿勢も解消された。 |
| 再度意思決定支援を行う必要性 | <ul style="list-style-type: none"> □ある (支援者らの評価・解釈に大きな相違や対立がある、意思に揺らぎが見られるなど) 理由： ■なし |